

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	国家能力自己評価（NCSA）の実施経験 Country Experiences in Implementing National Capacity Self Assessment
主催	Secretariat of the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC)
日時	2004年12月6日(月)18時～20時
主要討論者	<ul style="list-style-type: none"> ・ Ms. Diana Harutyunyan (Armenia) ・ Ms. Heidi Hallik (Estonia) ・ Mr. Bubu Pateh Jallow (Gambia) ・ Mr. Teofilus Nghitila (Namibia) ・ Ms. Joyceline A Goco (Philippines) ・ Mr. Luis Santos (Uruguay) ・ Mr. Bo Lim (UNDP)
傍聴者	約60人（各国政府機関、NGO関係者など）
目的	発展途上国と経済移行国によって行われたNCSAから学んだ教訓を述べることによって、まだNCSAを準備する過程にある国々の助けとなることを目的とする。
発表の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各国で行われたNCSAについての概要説明とそれにより分かったキャパシティギャップなどの問題点を紹介する。 ・ Global NCSA Support Programmeの紹介する。
主要な論点	<p><Ms. Diana Harutyunyan></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強い国家のオーナーシップが重要である。 ・ NCSAを行う過程で、排出量インベントリーの中のGHG排出データ、行政における能力不足、モニタリングと評価が低レベル等のキャパシティギャップがある。 ・ クロスカッティングアセスメント（cross-cutting assessment）は中央・地方政府等との協力が必要であり、環境教育、技術移転、科学的協力が不可欠である。 <p><Ms. Heidi Hallik></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NCSAを行う過程で、実施責任のためのシステムが脆弱、地方政府と中央政府の協力が弱い、政府内の協力が不十分等の問題がある。 ・ 技術的キャパシティに関して、統計的情報の欠如、経験不足、調査のためのキャパシティ不足がある。 <p><Mr. Teofilus Nghitila></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NCSAのプロセスから3つの条約(気候変動枠組条約、生物多様性条約、砂漠化防止条約)の実施のためのキャパビルを行う際には統合されたアプローチを発展させる必要である。 ・ 技術的・制度的・組織的なキャパビルが必要であり、そのためには地方レベルでの活動の実施を支援することが重要である。 ・ ナミビアのHIV/AIDS問題を早く安定化させる必要がある。 <p><Mr. Bubu Pateh Jallow></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NCSAの過程によって明らかになったキャパシティギャップに関して、経験不

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<p>足、弱い組織の枠組み、科学的情報の欠如が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 組織的・人的キャパシティの向上、交渉技術の向上、国家行動計画と実施戦略の発展、データへのアクセス改善などが必要である。 <p><Ms. Joyceline A Goco></p> <ul style="list-style-type: none">・ GHG 排出インベントリーに関して、地方の排出要因とデータ収集、分析と達成状況についてのキャパシティギャップがある。・ NCSA により部局間の調整、情報のシェア、データ管理に関して分野横断的なキャパシティギャップが存在する。・ 利害関係者間のより大きな協力関係を築くこと、関心を高めることが必要である。 <p><Mr. Luis Santos></p> <ul style="list-style-type: none">・ ウルグアイでは 2004 年の 9 月に NCSA が完了している。・ 機関間あるいは機関内での調整の困難さ、政策決定者の関心が不十分、外国の財源に依存、一般の人々の低い関心などがキャパシティギャップとして挙げられる。 <p><Mr. Bo Lim></p> <ul style="list-style-type: none">・ Global NCSA Support Programm は UNEP と UNDP が共同で実施し、行動計画の実施のための財政的支援を行う。
資料	PPT 資料（アルメニア、ウルグアイ）

文責：井上 智尊